

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社 ファミリエ
事業所名	グループホーム 橙園
所在地	八幡浜市保内町宮内5 8 3 - 1
自己評価作成日	平成22年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年2月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設以来、「心身の障害があっても、私らしく、あなたらしく、豊かに、人としての尊厳を守る。」という介護理念を基に、ご家族との協働によって利用者が地域の住民として生き続けられる支援でありたいと願い日々努力している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

年6回の運営推進会議の内、4月には地区の「公会堂」で公開会議をされており、委員以外に地域の方、ボランティア、婦人会等、100人ほどの参加がある。職員が各担当部門の活動の報告をされ、ホームのことを多くの方に知っていただく機会となっている。運営推進会議用に作った「橙園たより」は、委員の意見でご家族にも送られようになった。

事業所では「利用者は自由に動かれるのが当たり前なので、職員がそれに沿って対応する」という姿勢で取り組んでおられる。家に帰ろうと出かけられた利用者には、暑い時期なら麦藁帽子と水筒を持って、ご本人が納得されるまで職員と一緒に歩かれている。もしもの時のために「行方不明高齢者が発生しました」というファイルを利用者個々に作成し、写真・特徴を示して、警察に情報を提供できるようにされている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム橙園

(ユニット名)

水仙

記入者(管理者)

氏名

有馬房子

評価完了日

平成22年 1月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス、運営委員会の理念についての見直しをしたり、行事計画を作成する時は地域密着型サービス事業所であるということを念頭に於いている。又、地域の人々利用者の家族と共に楽しむ夏祭りやお月見会、ボランティアによる来園行事の際など職員は常に地域密着型サービス事業所としての理念に基き行動している。 (外部評価) 「心身に障害があっても 私らしくあなたらしく 心豊かに人としての尊厳を守る」という理念を玄関や事務所に掲示されている。管理者は「利用者への対応はすべて理念に基づいていなければいけない」と様々な場面で職員に伝え「ご家族や地域の人たちとの関わりを大切にしていかなければ、その人らしい尊厳を守る支援はできない」と考え、取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区組み入り、回覧での情報により消防、清掃活動を一緒にしている。又、日赤奉仕団との連携、公民館行事などに利用者共々積極的に参加している。 (外部評価) 地区の行事には出来る限り参加されている。地域の夏祭りには利用者用の席を用意して下さったり、公民館での文化祭には、利用者と職員で作った「かまぼこ板の作品」を出展された。日赤奉仕団の方達に外出の手伝いをしていただき、亀ヶ池温泉等に出かけられた。他にも、三味線・読み聞かせ・詩吟・大正琴等のボランティアの方の訪問もある。近くにある三島神社の清掃作業には、利用者職員で行かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年1回、運営推進会議を地域に公開することで認知症の人への理解が深まってきたように思う。近隣の入居希望が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の生活状態を橙園だよりとし、構成員の方々 のご意見を取り入れ、又、地域の一員としての活動がで きるよう工夫しています。	
			(外部評価) 年6回の運営推進会議の内、4月には地区の「公会堂」 で公開会議をされており、委員以外に地域の方、ボラ ンティア、婦人会等、100人ほどの参加がある。職員が 各担当部門の活動の報告をされ、ホームのことを多く の方に知っていただく機会となっている。運営推進会 議用に作った「橙園たより」は、委員の意見でご家族 にも送られようになった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村(地域包括センター)主催の研修には必ず参加 し、職員の自己研鑽に努めサービスの質の向上を図る と共に何事も連携を取りながら協力関係が築けるよう 努力している。	
			(外部評価) 市の実地指導の際「誰が見ても分かる記録」について 指導があり、地域包括支援センターに相談し、アドバ イスをいただき取り組んでおられる。管理者は「記録 を替えたことで職員の観察力・記録力が目に見えて向 上し、ケアの向上に繋がった」と話しておられた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成。身体拘束とは等具体 的に話し合い、研修していきながら、より良いケアが できるよう努力している。	
			(外部評価) 事業所では「利用者は自由に動かれるのが当たり前 ので、職員がそれに沿って対応する」という姿勢で取 り組んでおられる。家に帰ろうと出かけられた利用者 には、暑い時期なら麦藁帽子と水筒を持って、ご本人 が納得されるまで職員と一緒に歩かれている。もしも の時のために「行方不明高齢者が発生しました」とい うファイルを利用者個々に作成し、写真・特徴を示し て、警察に情報を提供できるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 園内研修で全職員が共通理解することで虐待の防止に努めたり、言葉による虐待が行われないよう折に触れて注意を払いケアしている。(ミニ研修など勉強会をしている)	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の機会を見逃さず参加し、理解を深めることで必要な時に支援が出来るよう努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入退居時、利用者さん・ご家族に時間をかけて、管理者及び介護支援専門員、担当者より説明させて頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、ご家族面会時などで、話を多く聞いている。面会時の様子などは大切に、運営委員会などに取り入れ討議している。 (外部評価) 毎月手書きでの近況報告と写真、2ヶ月に1回は「橙園たより」をご家族に送られている。ホームで伊予柑が沢山採れた際には、遠くのご家族に利用者の手紙を添えてお送りし、お礼のお手紙をいただいた。ご家族からは、普段から気付いたことを「あっさり」と話していただいております。職員の態度等についてもご意見をいただくこともある。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員に向けてのアンケートなど実施している。意見や要望などを職員全員よりとり、その報告は運営者より業務カンファレンスや運営委員会の場で、職員全員にあり、意見など反映された事もあった。 (外部評価) 事業所で行う大きな行事の後や、検討が必要なことについては職員にアンケートを取り、全員で話し合うようにされている。年2回、職員個々に自己評価を行うようにされており、職員の考えを集めて「業務カンファレンス」で検討されている。研修は、計画的に組まれたものと、職員が受けた研修を申し出るようになっており、内・外部研修等の機会も多く作られて学ばれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の賞与の際、職員それぞれ、自己相互評価をしており、運営者は、職員個々の気持や考えを把握している。又現場にて、職員の勤務状況なども把握し、努力や実績など認め給与に反映させている。有給休暇の取り方の話もあった。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) さまざまな研修に職員が平等に参加できるように配慮している。実践者研修・管理者研修も毎年受講している。資格習得も促し支援している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム連絡協議会があり、それに参加しており、事例検討したり、交換研修をしてサービスの質の向上につなげている。運営推進会議に参加訪問し、こちらの方にも招待し意見交換している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の事前面談をする中で、本人ご自身、ご家族の思いをしっかりと聞く場を設けている。(ケアマネ・看護職員・介護職など)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>当施設の介護方針を納得していただき、ご家族のご要望に応えている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族と事前面談などで、しっかり本人や家族の思いや、現在の状況などの話を聴く。当園は、デイサービスも併設しているのでそのような対応なども考えてみる。居宅のケアマネジャーの力もかりる。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の特技が活かせるようなプランを立て、自信を持って生活の拡がりにつなげるよう働きかける。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会・電話など自由に行く。 外泊希望を家族から出され、連絡があった場合外泊準備を職員と共にする。 買い物・散髪・銀行など本人希望で親戚の方に同行して頂く。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域より知人や友人が来園され一人ひとり自室、東屋にて楽しく話される。手紙を出したり、電話をかけたたりする事を支援していく。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者は地元からの入居が多く、友人・知人の来訪が頻繁にある。みかん山が気になる利用者には、ご家族や職員と一緒にみかん山に出かけて収穫をされたり、ご家族や友人によくお電話されていた利用者が、耳が聞こえにくくなったため、関係を続けられるようお手紙でやり取りできるように支援されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同作業やレクリエーションなどを通じて、一人ひとりが和気あいあいとした関係が作れるよう配慮する。利用者同士の関係性について、全ての職員が把握してぶつかったり、孤立したりした時などの声掛けや対応も話し合っておく。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設へ移られた後も、家族の方から連絡があったり、施設から様子を知らせる便りがあったりする。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人・家族の介護に対する意向や思いをしっかり受け止めプラン作成する。 毎日のかかわりの中で、本人の表情や言葉や行動を観察して本人が何を望んでいるのかなどを職員全員が話し合う。本人の好みによる外出・観劇など地域行事を取り入れながら、生活の中に拡がりを持たせる。 (外部評価)	
			管理者は「日々の観察の中でいろいろなことが分かってくる」と考えておられ、アセスメントや活動経過記録の様式を改善して「分かりやすい記録」を整理されたところである。	事業所では「一人ひとりの違う思い」の把握に力を入れておられる。職員の日々の利用者へのかかわりから、ご本人の思いや意向の把握に努め、新たにされたアセスメント表に情報を集め、さらなる利用者主体の支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面談・家族会議を通して一人ひとりのサマリーやフェイスシートなどの情報も頭に入れておきながら、本人や家族にもしっかり話を聴かせてもらって本人の生活歴やなじみの暮らし方に添えるよう工夫する。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別に合わせたプラン作成を基に一日の状態を記録し、目配りして、本人の楽しみを把握するようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアカンファレンス、サービス担当者会議により、一人ひとり課題に対して話し合い、モニタリングし、ケアプランに反映している。 家族が来園したとき、話されたことなど、意見や希望を聞いている。突発的な状態により、プラン変更する事もある。</p> <p>(外部評価) 9名の利用者の様子を24時間で生活状況を色分けして記録し、日々の介護記録「活動経過記録」に転記されている。「活動経過記録」には、「短期介護目標」が番号を打って記載されており、実施されたか分かりやすくされている。ご家族の来訪時にご要望やご意見をうかがうようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録や申し送り帳等に気づいたことを記入してもらい、日課表やモニタリングに記載している。夜勤者からNSへ日勤者・NSより夜勤者への申し送りをし、情報を共有している。毎月1回ケアカンファレンスをしてケアプランの見直しをして家族へ報告し協働している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 帰宅願望のある利用者には、家族へ手紙を書いたり、電話をしたりして連絡を取り、家族との外出やできれば外泊の支援をしたり。家族同行の受診 なじみの美容院や理髪店へ続けて利用したりできるように一人ひとりに合わせて支援している。デイサービスとの交流も効果がある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地方祭への参加 文化祭に自分達の作品を出展し それを見学に行く。近くの保育園児のお祭りごっこの訪問。訪問して下さるボランティアさんとの交流。当園の夏祭りは地域住民・地域の子供達 ボランティアさんとの交流の場となる。清掃ボランティアの参加、消防・地区共同の防災訓練もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価) 家族さんや介護職・看護職と連携しながら定期受診に行く。 かかりつけ医は、本人・家族と話し合っ て決定している。受診も、希望に応じ、 家族同行を取ったり、通院介助を取っ たりしている。 往診に来てもらうこと もある。 かかりつけ医、その他の医療 機関と関係を密にしている。 医療連 携体制がある。	
			(外部評価) 利用者やご家族と話し合い、かかりつ け医を決め、職員やご家族が通院介 助をされている。受診の後は、結 果を知らせ合うようにされている。	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとら えた情報や気づきを、職場内の看護 職員や訪問看護師等に伝えて相談し、 個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している</p>	(自己評価) 日常の関わりは看・介の区別はない。 毎日 夜勤者からNSに朝の申し送り があり、日勤者に助言、指示がある。 夕方は、日勤及びNSより夜勤者へ 夜勤帯の対応への申し送りをして、 情報を共有している。	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療 できるように、また、できるだけ早期 に退院できるように、病院関係者との 情報交換や相談に努めている。また は、そうした場合に備えて病院関係 者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価) 当施設は医療連携が整っており 病 院のDrや連携室とつながっている。 退院時などご家族との連携は、その 時々状態により蜜に行う	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 と支援 重度化した場合や終末期のあり方 について、早い段階から本人・家族 等と話し合いを行い、事業所ででき ることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる</p>	(自己評価) 終末ケアについて職員も勉強会など で話し合っている。本人や家族の思 いをしっかり聞き意向や希望を知 り NSを中心に連携を取る。医療機 関とも蜜に連携を取りご家族の安 心とご協力のもと看取りを支援。	
			(外部評価) 事業所では「重度化及び看取りに 関する指針」を示し、事業所での 看取りを希望される場合は、主治 医やご家族と協力して最期まで支 援していくと決めておられる。毎 日、仕事帰りに立ち寄り下さるご 家族等、家族とも協力し合いなが ら終末期の支援に取り組まれる等 されており、ご家族から「こうい う最期を迎えられて感謝してい ます」と感想をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜勤帯等 緊急マニュアルを作成しており。常に目配りをしている。 ケアカンファレンス・業務カンファレンスにて勉強会を持ち訓練をうけている。 消防署の訓練も受けている。夜間には緊急時にそなえて宿直員をプラス配置している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回しており、避難場所の把握をしている地域とも連携している。 地区訓練にも利用者と共に参加している。 (外部評価) 年に2回の避難訓練では、出火場所を変えたり、地震や夜間時等を想定し、又、利用者の誘導の順番や手順を検討して訓練を行っておられる。誘導する人の声が皆に聞こえるよう「メガホン」を常備されている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 不穏になられた時など、その状況に合わせて声かけ対応して話を合やす。排泄の声かけなどは、さりげなく大きな声にならないなど配慮している。一人ひとりの声かけや対応などケアカンファレンスなどで話し合っている。利用者のプライバシーの確保のため、守秘義務は徹底指導されている。 (外部評価) テレビの取材や写真の公開等は、ご家族やご本人の了解を得るようにされている。食事時の声かけは丁寧に行われており、又、職員が居室に入る際にはご本人に聞いておられた。排泄の誘導や失敗した時には、「恥ずかしい思いをさせないような声かけ」にも心がけておられる。管理者は「声かけ一つで利用者が落ち着いたり不安定になったりする」ということについて、その場その場で職員に伝えるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出・外泊など家族と相談しながら支援している。一人ひとりに合わせた声かけをするよう常に心がけている。そのため日々の観察をしっかりとって、本人の言葉の奥の気持ちを汲み取ったり、表情を読み取ったりできるようにしておく。誕生日などには本人の食べたいメニューなどを聞いたりする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お風呂など本人さんに声かけし気分がのらない時は無理はしないようにしている。 起床時間なども、本人のペースにあわせている。 行事への参加も声かけに配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みにより選んだ着衣介助整理や清潔への配慮をし、整容に対する満足が味わえるよう誘導する。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛り付けやテーブル拭き等声かけしたり、食後の後片付け、食器洗い・食器拭きの声かけをしながら職員としている。 「今日のメニューは ですよ」「この すごくおいしそうですね」「今日 さんの大好物のおかずですね」等など食事が進むような声かけを工夫している。毎回の献立を白板に書いて楽しみを持たすようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時には、利用者と職員と一緒に、節分の巻き寿司を巻いておられた。利用者も三角巾とエプロンを付け「人参は茹で過ぎたらいけんよ」とアドバイスされていた。小芋の皮むきをされたり、ランチョンマットを配ったり、テーブルを拭いたり、下膳をしたりと職員と利用者が一緒に作業をされている様子うかがえた。調査訪問時、誕生日の利用者がおられ、手作りのケーキでお祝いをされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量、水分量を記録している。ケアカンファレンスなどで一人ひとりに会った摂取量を把握し、確保できるよう工夫している。栄養バランスが悪くなったとき等は、チェック表をつけとり方を工夫したり、代替を考えたり支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力で、歯磨きできる人は声かけし、仕上げ介助がいる人はチェックし、声かけ見守りにて仕上げをしている。洗面所への誘導し歯ブラシを用意すると見守りにてできる人、自席での介助にての口腔ケアの人もいる。(夜間、義歯は外して必ず水の入った容器に保管している。)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンを知り 職員全員が知り一致した対応をしている。(時間に合わせて声かけしたり誘導したりしている)	
			(外部評価) 排尿・排便等、利用者個々に排泄の時間が分かるように記録されており、誘導の目安にされている。先々に誘導するのではなく、一人ひとりのサインを見逃さずに、誘導等ができるように努めておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 摂食(水分含)と排泄チェック、体調運動状態を把握。便秘の場合はDrに相談。必要時下剤の使用もある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴拒否などの様子が見られるときには体調を確認したうえ、入浴剤など入れて「温泉に行きましょう」「今日は道後の湯ですよ」等など声かけに工夫している。着替えの準備を一緒にし、入浴したい気分を誘ったりする。	
			(外部評価) 一連の入浴動作のうちにも、ご本人のできることでできないことを見極め、職員が手を出し過ぎることのないように心がけ支援されている。利用者が入浴を嫌がるような場合には、無理強いせず「明日にしますか」とカレンダーに丸を付けたり、「今日は別府温泉の湯ですよ」と入浴剤等もきっかけにして、お誘いすることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、活動してもらえよう努めているが、ウトウトしたり眠ってしまった時には居室にて休息してもらっている。就寝は一人ひとりに合わせた時間になっている。夜間は、見守り、巡視を徹底し、安心して眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 配薬は看護師がDrの指示のもとづき行い、服薬は職員全員がする。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り、食器洗い・食器拭き・洗濯物干し・たたみ等で出来る事はお願いして張り合いを持ってもらっている。しめ飾り・干し柿作り・畑の作業・いよ柑とりなど昔の事を思い出しながら上手にされている。利用者の書いた戦争体験記を「園だより」に取り上げた。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出や買物、散歩に同行し、家族との交流の機会を作っている。定期理容院へ行ったり、銀行へも行ったりしている。 隣町の公園までユニット全員で(車イスの人も)遠足に行き、季節の花を見ながら、お弁当を食べたり、他のグループホームの人達やボランティアの人達と一緒に花見を楽しんだりしている。	
			(外部評価) 庭で体操をしたり、菜園の手入れをされている。職員が同行して銀行に出金に出向かれたり、定期的に理美容院に行かれたり、自宅に荷物を取りに行かれたりと個別の外出も支援されている。毎年「ゆめみかん」の「芸能祭」にみんなで出かけておられ、今年は職員が出演されるので楽しみにされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理のもとで預かっている。自持ちの場合、一緒に残金を数え、紙に書いて一緒に財布に入れている。 お金を所持することで、安心し、満足している人もいる。散髪へ行ったり、近くの店に買物に行ったりした時には、自分の財布からお金を出している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族にお礼の手紙や電話を掛けれるよう、声かけ・誘導をしている。 毎年必ず、家族や友人への年賀状を出すための支援をしている。また、本人の要求時(銀行へ行きたい。散髪へ行きたい。など)に身内への電話の取次ぎをし、本人にも出してもらっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペースに、ソファなど置いているので、少し狭く感じる。換気に気をつけたり、また、職員の介護中の声に気を付けたり、私語は謹むように心掛けている。園の花畑から利用者と共に花を摘んで来て、テーブルの上に飾ったり、リビングのボードには大きなカレンダーを手作りして行事など書き込んだり、作品を掲示したり、廊下には季節ごとに飾り付けをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>畳のスペースは、座卓でくつろげるようになっており、利用者が生けたお花が飾ってあった。ホールの壁には、避難経路や利用者の習字作品や文化祭に出展したかまぼこ板の作品が飾っておられた。トイレの前には椅子が置かれ、座って待っておられる方が見られた。菜園には野菜が植えられており、伊予柑の木等もある。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペースの真ん中に畳の部屋があるが、そこに腰掛け思い思いに話しをしている。畳の上に上がって何人かで洗濯物をたたんだり、ソファにそれぞれ座ったりしてくつろいでいる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室内は、利用者さんそれぞれの個性やA D Lの状態に合わせたものになっている。床にベット使用の人、畳に布団の人もある。家族さんが季節ごとに衣類や寝具を交換されることも多い。お孫さんの写真なども飾られてある。(御家族が来られない利用者さんは、担当の職員と共に衣類の入れ替えや、居室の模様替えをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分で立ち上がることが可能な間は、出来るだけ畳に布団の生活をと畳の部屋を作られていたが、徐々にベッドを使用される方が増えてきている。位牌・椅子・テーブル・タンス・洋服掛け等が持ち込まれ、賞状や写真を飾っている方もおられた。ルーペを使って新聞を読んでもらえる利用者もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>床からの立ち上がりが困難な人には、ベットを使用している。 廊下・リビングには、全て手すりがある。浴槽内・洗い場から浴槽へ入る際に安全のための手すりがある。ユニットからユニットへ、ユニットからデイルームへ自由に移動できるようバリアフリーになっている。</p>	